



在仏日本人会 会報 N°312 2025年 3月・4月号

JOURNAL JAPON

第16回 音読発表会 — 保護者の感想 —



1月22日(水)、25日(土)に音読発表会を行いました。
全クラス各教室にて15分ずつ発表しました。
感想を保護者の方々よりいただきました。



今年度も各クラスの教室にて音読発表会が開催されました。我が家の息子2人は現在、小5下クラスと小4下クラスに通っており、それぞれ補習校10年目と8年目となります。音読発表会は、我が子だけでなく、同級生の皆さんの成長ぶりや、クラスの雰囲気を感じられる貴重なイベントなので、毎年とても楽しみにしております。



小4下クラスは、「プラタナスの木」を音読しました。クラスの生徒4人で、4人の小学生が登場するお話を読むことになったのは嬉しい偶然でしたが、10ページほどもある長い物語を4人だけで分担したため、子供たちの練習量は多かったと思います。このような文章は、ただダラダラと読むだけでは頭に入ってこないのですが、みんな上手に抑揚をつけ、会話の部分も気持ちを込めて読んでいたので、とてもわかりやすく聞き取り、練習の成果が出ていたなと思います。また、一番最後の段落は2人ずつや全員で声を合わせて読む工夫がされており、息も合っていて素晴らしいかったです。

(\次ページへ続く)



夏の引越しも混みあいます! お問い合わせはお早めに!

ご帰国の方

要予約

引越しセミナー

4/8(火)、5/6(火) 10~12時

場所: ZOOM会議

引越し免税、解約手続き、クリーニング、ワイン輸送など

至れり尽くせりのお引越
日本トランスユーロ
transeuro.jp

☎ 01-4058-1000
✉ sales@transeuro.jp

新生活サポート
物件探し



物件の紹介、内見や契約時の立会い、契約書の概訳、
入居点検への立会い、入居後の不具合クレームサポート

ご到着時、お手荷物が多いお客様
手荷物一時保管~ご新居へ配達
ご相談ください!

(\前ページから) 小5下クラスは、「固有種が教えてくれること」という説明文を音読しました。固有種とは何か、なぜ日本に多いのか、なぜ固有種を守っていかねばならないのかが、年代や場所、数字などさまざまなデータに基づいて説明されていて、難しい言葉や熟語も多い内容でした。どのお子さんも、内容をきちんと理解したうえで上手に音読していて、さすが5年生のクラスだなと感心しました。フランスに住んでいると、日本列島の成り立ちや、固有の動植物に関して詳しく学ぶ機会はほとんどないので、国語の教科書を通して、そのような知識に触れられるのも良い機会だと思いました。

生徒のみなさん、音読の練習おつかれさまでした。これからも楽しみながら日本語の学習を頑張りましょう。そして、通常の授業に加えて、音読発表会の準備をしてくださった先生方、いつも大変お世話になっております。心より感謝いたします。

小4下、小5下クラス保護者 桜井 道子



今年も無事音読発表会が開催されました。まずは練習を重ね成果を発揮された生徒の皆さん、お子様の成長を日々見守られている保護者の皆様、そして細やかな準備を重ね発表まで導いて下さった先生方、校長先生及び補習校関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。

私は息子の通う中学クラスの発表を参観させて頂きました。今年は「『不便』の価値を見つめ直す」という題材で音読発表し、最後に一人一人が「日常生活の中で取返して行っている不便な事」について発表しました。

少人数のクラスですのでそれぞれの読むパートがとても長かったのですが、「1つ1つの言葉や文章を丁寧に読む事で聞いている相手に届ける」という心意気を感じる素晴らしい音読でした。引き込まれ聞いている内に、「便利さの追求」に流されている私自身の生活を振り返る機会となりました。また最後の発表では、それぞれの生徒さんが意思を持ち、あえて不自由でも自分なりの価値を見だし実践している姿に人としての大きな成長を実感しました。

振り返れば10年前に初めて音読発表会へ参加させて頂いた際、中学生のお兄さんやお姉さんが難しい文章をスラスラと読んでいる姿を見て「大きくなったらあんな風に読めるようになるのかな? 凄いなあ」と感動した事を思い出しました。小さかった息子が今ではあのお兄さんやお姉さんの年齢となりましたが、日々熱意を持って指導して下さる先生方を始め、補習校を通じて仲良くなった仲間、そして様々な形で運営に関わって下さる方々のお力でここまで連れて来て頂いたのだな、と感謝の気持ちで一杯になりました。

改めて先生方、校長先生、補習校を支えて下さる皆様に厚くお礼申し上げます。そしてこれからも沢山の生徒さんが、音読発表会を通して読書や日本語を学ぶ楽しさに触れ、大きく成長される事を願っています。

中学クラス代表 坂東 綾子





のど自慢参加者一同



マロニエの会の行事で、メイン・イベントの新年会。

1月26日(日)に開催しました。お正月にふさわしい
 琴の音の音楽が流れ、会員・有志の方々での会場設定が
 終わり、12時30分開会。来賓の方のお言葉を頂き、
 テーブル狭しと並んだ会員持ち寄りの豪華なおせち料理
 に舌鼓を打ち、お腹も一杯になったところで余興の始ま
 り。新春の獅子舞、賑やかにチンドン屋パレード。ピアノ
 弾き語り・ハーモニカ演奏・ダンス、歌唱、クイズと盛
 り沢山。拍手喝采を受け、満更でもない芸達者の面々。
 恒例のMHKのど自慢大会。審査委員長は今年も日本人会
 事務局長の高橋幸隆さん。皆さん全員がキンコンカン
 コーン♪と鐘4つ。今年はインフルエンザや風邪での
 欠席者が14名で、例年より少ない58名の参加者でし
 た。今年米寿を迎えられる日本在住会員の増門範子さん
 が、「これが生きがい」とご挨拶。帰国されてから5回
 目の新年会参加。健康ならではの事。皆さんの驚きと、
 羨望の眼差しを受けておられました。

二口 節子



日本からの増門範子さん(中央)



お椀出せダンス



新田さんダンス



イゾラさん



熱唱木村さん



のど自慢



豪華なおせち料理



ダリオ君ピアノ



チンドン屋



会場風景

日本人会
「川柳パリ会」

2024年日本人会「川柳パリ会」最秀逸選出・選句結果発表です。

二席の方が同点で3名おります。

また、最高得点賞の方も同点で2名おります。

(秀逸・35点) 遠くから祖国の善悪良く見える

(スゲビー)

(二席・33点) ボランティア妻に尽くして五十年
 過去は美化未来は楽観鬱知らず
 泳ぐならタヒチが良かったセーヌより

(パリっ子)

(ドルチェヴィータ)

(とらこ)

(三席・24点) 老ひてこそ色気食い気の二刀流

(おてもやん)

最高得点賞・88点 とらこ & パリっ子

日本人会「川柳パリ会」では、新しい川柳仲間を募集しています。どのようにNET句会が開催されているのか、ご興味のある方は是非「通りすがりの野次馬」として、以下のリンクから既に開催された句会を覗いてみてください。

リンク: <https://ntgm.nolimbre.com/paris/login> 柳号: 通りすがり PW: paris75116

川柳仲間
大募集中!!



パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (2025年3月10日～5月10日)

パリ日本文化会館 事業案内

【展示】

万博クロニクル・イン・ジャパン

日時：2月18日(火)～4月5日(土) 会場：地上階エントランスホール

入場自由・無料

内容：2025年4月13日に開幕する大阪万博に先立ち、1970年以降日本で開催された万国博覧会の遺産をポスター、グッズ、アマチュア写真、動画などを通じて振り返ります。また、テクノロジーとの関わりとの進展などに焦点を当てていきます。

いけばな

日時：4月8日(火)～12日(土) 会場：地上階エントランスホール 入場自由・無料

内容：いけばなインターナショナルパリ支部によるいけばなの紹介。

金継ぎ～芸術と回復力のあわせ

日時：4月15日(火)～4月26日(土) 会場：地上階エントランスホール

入場自由・無料

内容：割れたり欠けたりした器を漆と金属を使って修復し、再び使えるようにする工芸が「金継ぎ」です。「金継ぎ」の発祥は「茶の湯」が盛んになった室町時代(14～16世紀)にさかのぼり、「侘びさび」の心とともに再生させる精神は日本の誇る文化です。一つの割れやかけを修復するには最短3か月以上を要します。全てに天然の素材を使用する本格的な金継ぎの作品約70点余りがパリに来ました。金継ぎ工芸会に所属する4作家の作品を展示します。

モノのエコロジー

日時：4月30日(水)～7月26日(土) 会場：2階展示室 入場自由・無料

内容：高度経済成長期の1960年代末に日本で始まった現代美術の動向である「もの派」や、同時代に起こった国際的な前衛芸術運動「フルクサス」における日本の作家の活動と、現代の作家を結び付け、キュレーター陣独自の視点で、ものと人、ものと環境、人と環境の関係性を問い直す展覧会です。11組のアーティストが1970年代から今日まで、枕木・段ボール・レシート用紙・金属・オーディオ・ビデオなど、様々なメディアムを使って、それぞれのようにして彼らの「環境」をとらえてきたかに迫ります。

【公演】

コンサート・Asynchrone Plays Sakamoto

日時：3月17日(月) 20時 会場：大ホール

参加費：一般20€/割引18€/会員16€

内容：パリのフリージャズ／エレクトロシーンで活躍する6人のミュージシャンで構成されるグループAsynchroneによる坂本龍一のカバーコンサート。クラシックからエレクトロ、ヒットチューンから実験音楽まで、ひとつのジャンルやスタイルに拘泥することなく、常にメロディと美を追求し自己刷新を繰り返してきた日本が誇る音楽家の遺した仕事に、独自の再解釈を施したコンサートです。

ダンス・熊谷和徳トリオ Tap into the Light

日時：4月25日(金) 20時、4月26日(土) 16時 会場：大ホール

入場料：一般20€/割引18€/会員16€

内容：2006年米ダンスマガジンにおいて『世界で観るべきダンサー25人』に選出され、2016年には米ダンス界最高峰と呼ばれる『BESSIE AWARD』をアジア人として初受賞した、タップダンサー熊谷和徳。近年では『Tokyo2020オリンピック』に出演・振付・作曲で参加するなど、タップダンスの新たな地平を切り拓き続ける熊谷と、NYジャズミュージックシーンにおけるレジェンドベーシストAlex Blake、同じくNYにて25年以上にわたり活躍を続けるピアニストToru Dodoによる、トリオ公演を披露します。

【映画】

千の世界——坂本龍一映画音楽特集

日時：3月21日(金)～3月29日(土) 会場：大ホール 参加費：一般6€/割引3€

内容：YMOの世界的成功で時代の寵児となった坂本龍一(1952-2023)は、大島渚監督『戦場のメリークリスマス』(1983)をもって映画音楽家としてのキャリアを歩みはじめます。本特集では坂本が劇伴を作曲した40作以上の映画のうちから、国内外の6作品を上映。3作品のドキュメンタリー作品とともに、世界の第一線で活躍し続けたアーティストの足跡を辿ります。上映作品：『戦場のメリークリスマス』『ラスト・エンペラー』『一命』『レヴェナント 蘇えりし者』『MINAMATA ミナマタ』『怪物』『トーキョー・メロディー』『Ryuichi Sakamoto: CODA』『Ryuichi Sakamoto | OPUS』

子ども・家族向けアニメ映画上映

日時：4月17日(木)～26日(土) 会場：小ホール

参加費：3€/10人以上の子どもグループは無料

今回のアニメ上映は「海」をテーマにお届けします。

4月17日(木) 14時「どうぶつ島」

1971年 / 80分 / 仏語吹替版 / 監督 池田宏 / 6歳以上対象 / © 1971, Toei Company Ltd. All rights reserved

4月18日(金) 14時「夜明け告げるルーのうた」

2017年 / 114分 / 仏語吹替版 / 監督 湯浅政明 / 8歳以上対象 / © 2017 Lu Film partner

4月19日(土) 14時「コクリコ坂から」

2011年 / 91分 / 仏語吹替版 / 監督 宮崎吾郎 / 10歳以上対象 / © 2011 Chizuru Takahashi, Tetsuro Sayama/Keiko Niwa/Studio Ghibli, NDHDMTK.

4月24日(木) 14時「崖の上のポニョ」

2008年 / 101分 / 仏語吹替版 / 監督 宮崎駿 / 4・5歳以上対象 / © 2008 Hayao Miyazaki/Studio Ghibli, NDHDMTK.

4月25日(金) 14時「思い出のマーニー」

2014年 / 103分 / 仏語吹替版 / 監督 米林宏昌 / 8歳以上対象 / Photo © 2014 Joan G. Robinson/Keiko Niwa/Studio Ghibli, NDHDMTK.

4月26日(土) 14時「きみと、波にのれたら」

2019年 / 96分 / 日本語音声・仏語字幕付き / 監督 湯浅政明 / 10歳以上対象 / © RIDE YOUR WAVE FILM PARTNERS

【講演会・セミナー・シンポジウム】

講演会「証言する3.11 後文学」

日時：3月13日(木) 18時30分～20時30分 会場：小ホール+YouTube配信

参加費：入場無料・予約制

内容：東日本大震災から14年。文学をつうじて災害の記憶はどのように語り継がれ、変容してきたか。木村朗子(津田塾大学教授)が、『世界文学としての〈震災後文学〉』(2021)の共著者であるアンヌ・パヤール＝坂井(国立東洋言語文化学名誉教授)とともに、震災が文学や近代史に与えた影響について考える。

「フォール航空教育団—空に羽ばたく日仏交流」講演会

日時：3月22日(水) 15時～17時 会場：小ホール 参加費：予約制・無料

内容：1918年～1921年・フランス遣日航空教育軍事顧問団

日仏交流の黎明期より、軍事分野は重要な役割を果たしてきました。フランスは、日本にエンジニアや操縦士を派遣し、フランスの航空技術、機材、専門知識を伝えました。1865年から1876年にかけては、横須賀港と海軍工廠が建設され、さらにフランス陸軍使節団が日本に3度派遣されました(1867年～1868年、1872年～1880年、1884年～1889年)。1909年、日本初の操縦士となる徳川好敏大尉がフランスのアンリ・ファルマン飛行学校で訓練を受け、日本はフランスから航空機を導入しました。1918年、第一次世界大戦終結前にもかかわらず、日本政府はフランス政府に対し、エンジニアと操縦士計63名で構成される航空教育団の派遣を要請しました。この使節団は、東京をはじめ、埼玉、千葉、静岡、愛知、岐阜の各県にまたがる8つの拠点で、軍用航空および航空産業の基盤を築く役割を果たしました。本講演会では、このフランス航空教育団とその日仏交流に関して紹介します。講演会後、映画「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」の上映を予定。

講演会「万国博覧会という、世界を把握する方法」

日時：4月1日(火) 18時30分～20時30分

会場：小ホール+YouTube配信 参加費：入場無料・予約制

内容：万国博覧会の歴史が始まって、1+3/4世紀。ヨーロッパの世界進出を背景に始まった万博は、各時代の国際社会の様相を反映して変化してきた。近年では、中東や中央アジアなど、広範な地域で国々が初開催を経験し、文化多様性を表現する興味深い催事となっている。一方、万博が各時代の国際社会を赤裸々に映し出すレンズであるという点は、創始以来変わっていない。佐野真由子(京都大学教授)が「開国」直後の日本の参画(1862)や、フランスの牽引で実現した万博の国際制度化(1928)、その制度の脱植民地化(1972)などに焦点を当てながら、万博の歴史と意義を考え直す。

講演会「金継ぎの美と自然素材」

日時：4月15日(火) 18時～19時半 会場：小ホール 参加費：予約制無料

内容：金継ぎとは、天然の漆や金粉などの金属を使い、割れたり欠けたりした陶磁器を再び使えるようにする日本独自の伝統的な工芸です。大切な器が壊れた時、何とかして直してあげたいという思いに応えてくれるのがこの技術です。最近では合成接着剤や合成漆を使用して、簡単に治す方法も金継ぎと呼ばれていますが、私たち金継ぎ工芸会は400年前に始まった伝統と技術を受け継ぎ、大切にしています。自然素材を使用するため、一つの修復には2～3か月の時間を要します。どのように修復するかを工程ごとに紹介し、様々な作品を解説します。金継ぎによって生み出されるアンバランスな文様の美しさ、それが表す日本の美意識と再生の精神をこの機会に感じてみてください。

講演者：福田敦子(ふくだ・あつこ)

福岡市生まれ。福岡市に本部を置く金継ぎの愛好会である「金継ぎ工芸会(設立2006年)」会長。2002年3月より金継ぎを学び、指導。毎年、各地で作品展を開催している。

【ワークショップ】

「和菓子カフェ」

3月15日(土) 13時～最長18時半まで 会場：レセプションホール

参加費：お菓子/お抹茶代(お土産のお菓子付)15€、予約無し

内容：1954年の開校以降、常に新たな教育に挑み、多くの次代を担うプロを育て続けている東京製菓学校。同校で和菓子の知識と技術を学び、この3月に卒業した若い和菓子職人たちがパリでその成果を披露します。4種類ほどの和菓子からお好みの和菓子の一つをご自由にお選びいただき、若い職人たちがみなさんの目の前で技を披露いたします。お菓子はお抹茶と一緒にどうぞ。また、お土産に和菓子一つをプレゼントさせていただきます。

学校対象ワークショップ「墨絵」

日時：3月27日(木)及び28日(金) 9時半-16時 会場：教室

参加費：登録制無料 予約：MCJPからの予約で登録開始。メーリングリストへの登録希望の方はresagroupe@mcjp.frまでご連絡ください。

内容：2021年11月からMCJPでは学生対象に日本文化を体験頂く事業を毎期実施しています。今回は墨絵です。対象：CP～高校生。

篆刻ワークショップ

日時：4月12日(土) 13時及び16時

会場：教室 参加費：43€(材料費込み)

内容：篆刻は書道の一分野の、最も小さな芸術です。古来より「方寸の世界に宇宙を宿す」と言われるように、ほんの数センチの小さな空間の中に壮大な世界が広がります。今回のワークショップでは篆書、またはかな文字で、お名前またはご希望の字を彫ります。世界でひとつ、オリジナルの篆刻印は、作品や手紙にサインとして用いたり、本や持ち物に押したり、使い方はアイデア次第です。さらに印面を守るための「はかま」も作ります。所要時間2時間半。

パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris) 事業案内 (3月10日～5月10日) 続き

子ども向け「ミニいけばなを作ろう！」ワークショップ

日時：4月15日・22日(火) 14時半、16時 参加費(材料費込) 15€

内容：いけばなの基礎を学びながらいけばな文化を体験してみましょう。8歳以上対象/子ども同伴保護者の参加も可能。

「金継ぎを体験しよう」ワークショップ

日時：4月19日(土) 会場：教室2

内容：日本には400年以上前から伝わる「金継ぎ(きんつぎ)」という伝統技術があります。欠けたり、割れたりした器を漆や金などをを用い再生する技術です。その修復部分は景色となり、器に風情と新たな魅力を与えてくれます。「金継ぎ」は、通常ひとつの器の仕上げに2～3ヵ月の時間を要しますが、今回のワークショップでは特製のタイルや器を使って、その工程の一端をご体験いただきたいと思います。

-子ども向けセッション> 13時

料金: 15 € / 所要時間: 1h30 / 10歳以上対象(13歳未満のお子様は大人の同伴要。(保護者のチケット購入は不要)

-15歳以上・大人セッション> 15時半 料金: 25 € / 所要時間: 2h

「インテリア書」ワークショップ

日時：4月18日(金) 会場：教室2

内容：インテリア書は日本の伝統文化である書道にシンプル・モダン・お洒落のエッセンスを加えた墨のインテリアアートです。書道の基礎ができていない方でも、漢字・かな・ローマ字に至るまで、ポイントさえつかめれば自由に表現できます。インテリア書は形重視ではなく、絵を描くように線の変化を楽しむ書ですので、比較的時間をかけずに仕上がり、子どもから大人まで幅広い年齢層にも楽しめます。ワークショップでは、ポストカードに作品を仕上げてみましょう！作成した作品はご自宅に飾って癒し効果と共に、生活に潤いを期待できます。

-子ども向けセッション：14時 参加費：10€、所要時間：45分、対象年齢：9歳以上

-大人向けセッション：15時半 参加費：15€、所要時間：60分

講師：城戸智子(大東文化大学卒 漢字・仮名・インテリア書・実用書講師)

子ども向け「こいのぼりを作ろう！」ワークショップ

日時：4月24日(木) 13時、15時、17時

会場：教室2 参加費：13€、グループ料金：一人10€ 対象年齢：4歳以上

内容：5月5日は「子どもの日」。この日は、子どもたちの健やかな成長を願い、お祝いする特別な日です。鯉のぼりは、子どもたちが元気に大きく、そして鯉のように強く逞しく育つようにとの願いを込めて飾られます。子どもの日の由来についてお話した後、みんなで楽しく鯉のぼり作りを楽しみましょう。対象年齢：4歳以上

講師：コアント口清香

子ども向け「粘土で作ろう！」ワークショップ

日時：4月25日(金) 及び26日(土)

内容：超軽量粘土の白、マゼンタ、青、黄色の4色を調合して、オブジェを作ってみましょう。乾燥後はとても軽くなり、こわれにくくなります。お部屋に飾ってお楽しみください。作った作品はお持ち帰りできます。汚れても良い服装で参加ください。5歳以上対象/7歳以下は大人の同伴要

-春のお花見弁当 4月25日(金) 14時～15時半 参加費：12€

春になると、日本ではみんな桜の木の下でお花見をします。春色いっぱいのお花見弁当を作りましょう！

-和柄風鈴 4月25日(金) 16時～17時半、4月26日(土) 14時～15時半 参加費15€

日本の暑い夏に風鈴の音は清涼感をもたらせてくれます。自分だけの風鈴を作って窓辺に飾ってみませんか？

-起き上がり小法師 4月26日(土) 16時～17時半 参加費15€

起き上がり小法師は、日本の伝統的な縁起物で、倒れても起き上がる姿が粘り強さを象徴します。粘土を使って形を作りカラフルな色で作ってみましょう。

*以下についての詳細は、掲載サイトをご覧ください。

【教室】 <https://www.mcjp.fr/ja/agenda?subsections=cours>

囲碁教室 裏千家茶道-茶の湯 裏千家茶道教室 表千家茶道-茶の湯 表千家茶道教室-立礼 日本庭園教室 生花教室 書道教室 日本画教室 布ぞうりワークショップ 折り紙ワークショップ 日本舞踊教室

【日本語講座】

<http://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais>

【JF にほんご eラーニング みなと】

https://www.mcjp.fr/fr/langue-japonaise/apprendre-le-japonais/cours-en-ligne_1

<パリ日本文化会館の催しに関するお問い合わせ>

火曜日～土曜日、11時～19時 問合せ先：TEL 01 44 37 95 01

所在地：101 bis, quai Jacques Chirac, 75015 Paris

<http://www.mcjp.fr/>

*日本人会発行のAMICJカードの提示でMCJP会員価格の適用が受けられます。

Amic Jカード協賛店リスト

*在仏日本人会の会員証と一体化しているAmic J カードの提示によって以下の協賛店よりさまざまな特典が受けられます。特典内容は以下のリンクよりご覧いただけます。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>

PARIS LOOK

16, Bld Haussmann 75009 Paris

Tél: 0659182457 (佐藤)

bon bon watch

15 bis, rue de Marignan 75008 Paris Tél: 01.42.89.29.05 /

12, Bd. des Capucines 75002 Paris Tél: 01.47.42.35.51

PISARZ Alexandra

淀屋

21 rue Lamartine 75009 Paris Tel/Fax 01.48.87.23.05

Sophie d'Annunzia

17 rue du Cherche-Midi 75006 Paris Tél: 01.45.44.46.54

BOISSIER CHOCOLATIER

48 rue de Passy 75016 Paris Tél: 01.45.03.50.77

Mme Trolet

COCOCO

35 rue Coquillière 75001 Paris Tél: 01 72 38 49 71

DA ROSA

37 Rue de Grenelle, 75007 Paris Tél: 01.40.51.00.09

Pâtisserie YAMAZAKI

6, chaussée de la Muette 75016 Paris Tél: 01.40.50.19.19

Restaurant ZENZAN

4 rue Brey 75017 Paris Tél: 01 53 81 00 75

パリ日本文化会館 Maison de la culture du Japon à Paris

101 bis, quai Branly 75740 Paris cedex 15

Tél: 01.44.37.95.00 総務部

Y/Salon Paris (Salon de coiffure 美容室)

6 Rue de la Coutellerie, 75004 Paris

Tél: 01 44 93 77 60 (担当 Mme Miki)

RÉFLEXE CYCLES

5 RUE DE SENLIS 75017 PARIS. Tél: 07.66.27.45.93

ENGLISH FOR JAPANESE

5 bis rue Emile Allez 75017 Paris Tél: 01 45 72 12 71

FEHRENBACH DRIVING SCHOOL

53 bd Henri Sellier 92100 Suresnes Tél: 01.45.06.31.17/

06.20.63.75.31 Michelミシェル

MAS DI LUNA(月の館)B+Bペンション

Can Partère 66150 Arles sur Tech T&F

Tél: 04.68.83.41.32 (日英仏)ルシカ

Meeting The French

25, rue Michel le Comte 75003 Paris Tél: 01.42.51.19.80/

01.77.37.34.95 日本語担当 Vincent Grépinet

Idealump France

66, avenue des Champs Élysées, 75008 Paris

contact@idealump.fr

不動産相続アーキテツ株式会社(FSA社)

akikosugata03@gmail.com_(海外担当 須賀田ボンソー明子)

新刊案内、
アトリエイベント情報は

@JunkuFr



営業時間 月～土 10時～19時

Librairie japonaise JUNKUDO

18 rue des Pyramides

75001 Paris France

Tel: 01 42 60 89 12

Mail: contact@junku.fr



『タクトは踊る
風雲児・小澤征爾の生涯』
中丸美繪 著
文藝春秋



舞台裏より愛をこめて vol.21

「日仏の絆-lien-」



本日は狂言から少し離れ、2018年にございました日仏間での交流、“絆姫人形”につつましてしたためたくお付き合い下さいませ。

2016年のある日、椎井友紀子プロデューサーと映画監督の阪本順治氏よりご連絡を頂きました。2011年3月11日の東日本大震災で被災され、近い方々を亡くされた宮城県南三陸町のご婦人方がひとつひとつ心を込めてお作りになられた“絆姫人形”を、フランス遺族会へ届けて貰いたい、という旨でございました。

2015年11月13日のパリ同時多発テロはじめ、各地で起きたテロにより奪われてしまった尊い命を偲び“被害者ご遺族の方々に寄り添いたい”という思いからのこと、勿論喜んでお引受け致しました。

阪本監督とのご縁は『北のカナリアたち』という映画へ息子が、森山未来さんの子供時代役で参加させて頂きましたことから、映画内ではあることか、主演の吉永小百合さん演ずる分校の先生へ小学生の息子が石を投げつけるというシーンがあり、当時は“サユリスト”からカミソリでも送り付けられて来るのではとヒヤヒヤしたものでございました。

その阪本監督と椎井プロデューサー、そして南三陸のご婦人方の思いを何とかお届けしたくもなかなか糸口見つけれられず、しかしながら最終的に在仏日本国大使館さま、在仏日本人会さま、日仏文化協会さまのご協力を賜りまして2018年、2年間の時を経てようやくAFVT(仏テロ被害者協会)さまへ公式な形で“絆姫人形”300個余りをお渡しすることが叶いました。一番の立役者は我が在仏日本人会会長片川喜代治さま。ムッシュ片川のお力添え無くしては実現出来ない事でございました。

会場では南三陸ボランティアチームからのお便りが読み上げられ、悲しみをわかち合う中で涙を拭くお姿もあちこちで見られましたが、苦境にあっても互いの心に寄り添い逞しく生きてゆこうと再確認されたかのように“絆姫人形”を選び持ち帰る姿に清くしさが感じられました。

また、2023年に逝去された親日家のジェーン・パーキンさん、実は東日本大震災後何度も日本を訪れ支援を続けておられ、南三陸のマダム方ともご交流があられたとのこと。そこで“絆姫人形”贈呈式へご同席頂けたらと友人を通してコンタクトするも、ライブ期間と重なり残念ながら叶わず、それでも後日ショートメッセージを下さるなど、あたたかなお心にただただ感謝致しました。

東日本大震災の折はまだ関西で暮らしており、不気味な揺れに見舞われ、程なくニュースに様々な映像が流れ始めたことを、3月が来るたびに思い出します。フランスからも沢山のご支援、メッセージが届いていました。その後狂言の普及を主な目的としてパリへ移り住みましたが、震災から7年後のその日、日仏で繋がる“絆-lien-”の場面に立ち合わせて頂けたことは大変有り難く、様々な悲しみと対峙しつつ屈しないご遺族のお姿に触れ、勇気と共に生かされている奇跡に感謝するばかりでございました。

自然災害の多い日本、常に天地の脅威に晒され各所での災いは止まること知らず、今でも不便を強いられながら日常を過ごすなければならぬ方が多くいらっしゃると思います。その中で私どもは一体何ができるのでしょうか、伝統芸能、能楽、演劇の存在意義を問いつつ明確な回答を模索する日々であったりも致します。

本日はこの辺で。
平和への祈りを込めて。



小笠原尚子(おがさわらたかこ)プロフィール:

“やんちゃ狂言師の裏方古女房” 東京生まれ。神戸→名古屋→横浜→佐渡ヶ島育ち。故八世野村万蔵主宰“わざおぎ塾”にて学生時代に演劇を勉強中、狂言師小笠原匡と出逢い1996年に結婚、伝統芸能の世界に入る。その後、大阪生活を経て2014年よりパリ在住。

現在、パリで狂言普及活動の傍ら、自らは役者業を再開?!



2018年“絆姫人形”贈呈式の様子と
J.パーキンさんからのメッセージ



フランス人物伝 <21>

～ニセフォール・ニエプス(発明家)～

坂本 昭二(龍谷大学)

今回は写真技術の基礎を築いた発明家であるニセフォール・ニエプス(Joseph Nicéphore Niépce: 1765-1833)をご紹介します。

ニセフォール・ニエプスは1765年にブルゴーニュ地方南部にあるシャロン＝シュル＝ソーヌ(Chalon-sur-Saône)で生まれ、父は法律関係、母は地元の名家出身で広い土地を所有する裕福な家庭で育っています。1780年から1788年にかけてオラトリオ会の大学で学んだ後、ナポレオン時代の1792年には革命軍に入隊、フランスやイタリアなどを転々とした後、ニースに定住して1794年にアニエス・ロメロ(Agnès Roméro)と結婚、1796年には彼女との間にイシドール(Isidore)が誕生しました。

1795年に軍を除隊した後、1801年に故郷でニエプス家の大邸宅のあるシャロン＝シュル＝ソーヌに戻り、研究開発をしていた兄のクロード(Claude)の手伝いを開始します。1807年に兄弟はピレオロフォール(Pyréolophore)と呼ばれる世界初の実働する内燃機関を開発しましたが、既に実用化されていた蒸気機関(外燃機関)を置き換えるには至らず、結果的にピレオロフォールの事業化に失敗し、ニエプス家の財政を徐々に傾かせ、後に兄のクロードは精神を病んでしまいます。当時、ニエプス家の財産、土地、使用人など一切の管理は弟のベルナル(Bernard)が管理していましたが、1807年にベルナルが亡くなった際にニエプス家一切の管理をニセフォールが引き継ぐと、もはやニエプス家が裕福ではないことに気がきます。1814年頃には大邸宅を手放し、近郊のサン＝ルー＝ド＝ヴァレンヌの邸宅に移り住み、農業をしながら研究活動を続けます。

ここで彼が最も関心を寄せたのはカメラ・オブスクラ(camera obscura)で、箱の一方に穴を開けてレンズを嵌めておくのとレンズを通過した光は箱の内部で上下逆に像を結ぶのですが、箱内部に光の当たったところだけ反応する材料(感光材)を用いた板を設置して像を定着させることを考えました(ピンホールカメラの原型)。試行錯誤の結果、1824年に鉛と錫を合金した金属板にアスファルト(光が当たると硬化する)を感光材として塗布する技法で、像の定着(世界初の写真撮影)に成功しています。しかし、このエリオグラフィ(héliographie)と名付けられた撮影方法では露光に8時間から数日かかったとされ、動く物体は写せませんでした。

この問題点を克服するため、1829年にパリで活躍していたマンデ・ダゲール(Louis Jacques Mandé Daguerre: 1787-1851)と共同研究を開始しますが、1833年にニセフォールは脳卒中で亡くなってしまいます。彼の研究はダゲールと息子のイシドールに引き継がれ、1839年に銀メッキをした銅板を感光材とするダグレオタイプ(露光時間は10～20分程度まで改善)と呼ばれるカメラが完成し、

長年の研究成果が実を結びました。現在、サン＝ルー＝ド＝ヴァレンヌの邸宅は保存され、また、彼の生まれ故郷のシャロン＝シュル＝ソーヌで設立されたニセフォール・ニエプス博物館(Musée Nicéphore Niépce)では彼に関するコレクションが展示されています。

(画像はwikipediaより引用)



Daguerreotype

日本人会活動案内 -各種相談室・講座・活動-

各種相談（会員のみ）

*要予約（電話に限る）：01.47.23.33.58

法律相談（フランスの法律問題）（手配料 5ユーロ）

事前予約の上、電話で相談を受け付けます。

法律上のトラブルを抱えている方は、必ず関係書類をご用意ください。相談内容は職業上の守秘義務により厳守されます。予約は相談日の1ヶ月前から受け付けます。

滞在相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact.ajf@orange.fr

健康相談

日本人会にメールでお問い合わせください。contact.ajf@orange.fr

無料子ども相談室

臨床心理士、神経小児科医、保健師、助産師などの専門家がご相談にお答えいたします。ご希望の方は「子ども相談」という件名をつけてkodomo.fr@gmail.com 折口までメールください。

クラブ活動・各種講座

ふらんす俳句会

有季定型を基調に句作の楽しみを味わっています。

代表 樋山なをみ 連絡先 hiyamanaomi@gmail.com

子ども図書館

読み聞かせ 毎月第1および第3水曜日 11h30～13h00。

日本語児童図書の貸出・返却は随時。永年登録料：子供一人／2ユーロ

女声コーラス「みもざ」

コーラスの仲間達と美しいハーモニーを作り、楽しいひとときを過ごしませんか。日本の歌、ミサ曲、フランス歌曲など。毎週火曜日13：30～16：00、Notre Dame de Compassion / Place du Général Koenig 75017 Paris (Porte Maillot) <https://mimosa-club-japon.jimdosite.com/> を参考に。連絡TEL 06.33.89.56.59(石原) メール：mimosafrance@gmail.com

日本人会アーティストクラブ（NAC）

日本人会会員の美術系アーティストのクラブ。年会費16ユーロ。毎月第一火曜日の18h頃～20h頃、オペラ界隈のカフェLa Clef des Champs (49, rue des Petits Champs 75001 Paris、京子食品の斜め向かい)に於いて月例の親睦会を開きます。飲み物代は自己負担。NAC会員以外の方の参加も大歓迎です。問い合わせは日本人会まで。カフェLa Clef des Champsが閉まっているか満席の場合は、以下の2店を覗いてみて下さい。カフェLe Ventadour 46, rue des Petits Champs 75002 Paris/カフェDalayrac 2, rue Dalayrac 75002 Paris。

次回は4月1日(火)です。

マロニエの会

毎月第2火曜日15h～17h茶話会「La Clef des Champs」49 rue des Petits Champs 75001 Paris 第3日曜日&第4水曜日14h30～国際大学都市「日本館」で月例会。ホーム訪問、講演会、新年会、希望祭参加、郊外農園バーベキュー大会、バス遠足、美術館・催し物見学、食事会と楽しい企画も盛り沢山。

会報を年3回送付。年会費 20ユーロ

連絡TEL：06-5170-4955 (二口) 06-2253-7418 (六藤)

ソフトボール大会

春秋の年2大会あり。年齢・性別・国籍に関係なく、個人またはチームでの参加可。

連絡:実行委員長 代理 橋本 勝義 TEL: 06-14-73-37-31

キッズテニス

ARJ16 Tennis Club (Stade Henry de Montherlant : 32 Bd. Lannes 75016 Paris)

キッズテニス 小学生から高校生 毎週火曜日(現地校のバカンスを除く)

17時 2クラス 小学校低学年から高学年生

18時 2クラス 小学校高学年から高校生

ただいま、若干空きがあります。年齢とレベルによりクラスが決まりますので、メールにてご相談ください。

一般クラス 随時会員募集 初心者クラス、経験者クラスがあります。

火曜日 11時、12時、14時、15時、19時 木曜日 12時、13時、14時、15時

金曜日 11時、14時、15時

個人、グループでのレッスンをお受けします。

お問い合わせ amicalejaponaistc@yahoo.fr

書道同好会

毎週木曜日 15h～17h 参加費：月20ユーロ

講師：林 信賢

TEL 代表: 06 22 53 74 18 国際大学都市「日本館」

くもん日本人会教室

水曜日14h00～17h00 土曜日13h00～17h00 詳細はTEL:06 09 66 94 39 (中村)

シャンソンDidier教室

日時：第2・第4土曜日（16時～18時）

場所：Pavillon de la Sirène

20, rue Dareau 75014 Paris M^oDenfert-Rochereau

詳細は下記にお問い合わせください。

ch.tanaka@orange.fr Tel. 06 0383 2674 (田中)

氣功教室

毎週木曜19h～20h 全レベル参加歓迎

会場：天理文化センター 8-12 rue Bertin Poirée 75001 Paris

最寄駅 Châtelet 参加費：1時間 9ユーロ（日本人会会員割引あり）

氣功の他に、太極拳、簡単に見つかる針、マッサージのツボ探し、健康自己管理の知識等も指導。講師/連絡先：ラン光旭（パリ第6大学医学大学院利氣功・太極拳講師）TEL：06-69-43-54-45 メール：yokogx@gmail.com

健康と美・ウォーキングレッスン

元パリミラノ東京コレクション/現役モデルによるウォーキング・写真のポーズ・メイクアップ・Before & Afterなどニーズに合わせたプライベートレッスン（コース3回・180€/3h）プロ志望の方、カウンセリング、Zoomオンラインも可能（非会員：別途料金）

詳細はお問い合わせください。facustudio@gmail.com TEL:06-2296-0655

講師：北幸子（所属：Paris：Master Models, Tokyo：Oasis Styling）

子供のための習字教室

土曜クラス：第2, 4土曜日 11h-12h 場所：日本人会 授業料：1回15ユーロ（日本人会会員料金）。入学随時受付。

お問い合わせ：六藤 06-22-53-74-18 kayoko94000@yahoo.co.jp

日本館茶の湯会（裏千家流）

於国際大学都市日本館。

稽古火 金曜日（14時半～17時半） 1月24日・31日 土曜日（13時半～16時半） 1月18日・25日

稽古参加費一般20ユーロ 入会金20ユーロ

稽古日：

金曜日（14時半～17時半） 3月14日・21日

土曜日（13時半～16時半） 3月8日

*行事 3月16日（日）・29日（土） 花見茶会

お問い合わせ nihonkan.cyanoyu@gmail.com

成人学習者向け日本語講座 *現在活動休止中

ヨガ教室 個人レッスンとオンラインレッスンに加えて、今春からグループレッスンを再開しました。 詳細はメールにてお問い合わせください。

日時：平日午後を中心に参加者のみなさまのご都合に合わせて

会場：パリ市内 対象者：全てのレベル 参加費：1時間30€から

講師：ラロッシュ・アメリ

問合わせ・申込み：info@vacances-amelie.com（日仏）

川柳バリエ

インターネット上の「NET句会夏雲システム」を利用して開催されるバーチャルな句会を中心にした活動です。川柳をネット上の句会に投句したり、他の会員の川柳を楽しんだり、優秀だと思ふ作品を選句して参加することが可能です。

連絡先：代表 石井 宏 parisici@yahoo.co.jp

※在仏日本人会法人会員名簿は、インターネット・サイトに掲載されています。

日本人会ホームページの次のリンクをご利用ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/about-nihonjinkai/houjin-kaiin/>

amicJ協賛店一覧はこちらのサイトを参照ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/members-service/amic-j-card/>日本の企業と個人向けに企業、災害、賠償、
運輸、医療、その他保険のことなら
何でもランボーラボロスへどうぞご連絡下さい

91, rue Saint-Lazare 75009 PARIS

TEL.01.53.32.20.00 まで

FAX.01.42.85.04.65



Michel BRUNEAU
(ミッシェル・ブリュノー 会友)
当会フランス語講座講師
1978～98年日本に滞在
元上智大学講師

ブーリエ 人生にかならず苦しみがつきまっています。彼はキリストの受難を思い出して病気の苦しみを受けていました。ただの我慢ではなかった。
ジベルト 不平を言いませんでした。彼が書いた「病気の正しい使い方」**にその態度がよく現れています。

ブーリエ 私も死を迎える時に同じ気持ちになりたい。聖体拝領の前に、カトリック教会の全ての教えを信じていますか？と彼にたずねると、『はい、心から信じています』と、答えました。

ジベルト イエズス会との喧嘩***にふれましたか？

ブーリエ もう神様の愛に背く喧嘩をしたくないが、福音書のキリストの言葉を曲げるのまでは、許しません、と。

例えば、心の貧しい人が幸いである、あなた達お金持ちは不幸です。耳に入りにくい聞きづらい言葉ですが、甘い解釈をしてはいけません。

◎Pensées LG 655 (Louis Lafuma版パンセ655番)

質素な生活を好みます、イエスがそのような生活を好んでいましたから。財産は貧しい人々を助けるため。

悪に悪を返さない。全ての人が幸せになるように願っています。

真理を求めて、人に対して公平と忠実を守るように勤めます。

親戚と友人に対して特別な優しさを待っています。(筆者訳)

数年後に: アルチュス (Artus) ****とその妹のシャルロット・ド・ロアネーズ (Charlotte de Roannez)

シャルロット- 親友のブレーズをいつも思い出します。忘れられません。

アルチュス- 私もそうです。

パスカルの家族:

父 Étienne Pascal 数学者(1588年—1651年)

母 Antoinette(1596年—1626年)

姉 Gilberte(1620年—1687年)

Blaise(1623年6月19日—1662年8月19日)

→1641年ルーアン(Rouen)でFlorin Périerと結婚

妹 Jacqueline(1625年-1661年)

【第十幕】(終章)

Paris Saint-Etienne du Mont のブーリエ (Beurier) 神父は、ブレーズ・パスカルを見守っていました、死ぬまで。

ブーリエ 彼の最後の言葉を忘れられません。『神様が私を受け入れますように!』

ジベルト 聖トゲの奇跡*の後はブレーズの生活が変わりました。

ブーリエ 教会を訪ねてその遺物を崇拝していました。知能の優れた学者でしたが、宗教に対して子供の心をもっていました。

ジベルト 前から病気だったのですが、最近とても苦しんでいました。

シャルロット- 世間から離れた時に私にとって模範でした。

アルチュス- だれも知りませんが、肉体の欲望を押さえるために苦行をしていました。

シャルロット- 本当ですか？

アルチュス- 彼が亡くなってから分かりました。

シャルロット- 数学と物理学の研究を止めていましたか？

アルチュス- 止めていませんでしたが、人にとって役に立つことを選んでいました。

シャルロット- 例えば？

アルチュス- 湿地の乾燥、そして公共交通の開発。

シャルロット- 5ソル馬車 (Les carrosses à 5 sols) *****は、以前だれも考えてなかった名案でした。ブレーズが私に書いた手紙は、精神的に大きな助けになりました。

アルチュス- 私も彼の影響のお陰で人生が変わりました。

シャルロット- 聖トゲの奇跡の後にPort-Royalの修道院に入りました。ずっとその修道院に残ればよかったのに。

アルチュス- シャルロット。あなたのせいではない。家族のせいです。高貴な家族の娘が修道女になることはありえないことで、王さまが許しませんでした。

シャルロット- 結局結婚をせざるを得なかった。病気になって、そして障害者の子供を生みました。神様のバツでした。

アルチュス- そんなことはない。怒ってバツを与える神様ではない。福音書に書いてあるように神様は愛です。しかし、私たちが理解できないことが多いのです。

シャルロット- アルチュス、きっとあなたは正しいです。修道女の名前としては"Charlotte de la Passion"を選んでいました。キリストの受難の記念に。

アルチュス- 確かにキリストの受難は神秘です。ブレーズが言っていたように神様の神秘は私たちの理性を超えています。

*聖なる棘(とげ)の奇跡: 聖なる棘とは、キリストのいばらの冠の棘のこと。1656年、姪のマルグリッドの、治らないとされていた瀕死の傷が、修道院の御堂の聖なる棘に祈り、その入っている箱に傷をあてることで、治ってしまったこと。(会報308号を参照)

病気の正しい使い方 (L'usage correct des maladies): キリスト教的な価値観について述べられており、特に「質素な生活」「貧しい人を助ける」「悪に悪を返さない」「公平と忠実」などのテーマが見られる。これはまさに『Pensées』の特徴的な道徳的・宗教的な考え方。*イエズス会との喧嘩: ブレーズは友人であったポール・ロワイヤル修道院のジャンセニストたちを弁護するために、『Les Provinciales』という手紙を執筆。一連の18通の公開書簡で、イエズス会の倫理と神学を痛烈に批判するもの。

****アルチュス (Artus): ロアンヌ公アルチュス・グフィエ (Artus Gouffier, duc de Roannez) 1627-1696 ブレーズの親友。ブレーズのPensées (パンセ) を集めることに努めた。(会報310号参照)

*****5ソル馬車 (Les carrosses à 5 sols): ブレーズ考案の世界初の共同交通機関。(会報310号参照)

日本の四季のレシピをフランスで

お帰りなさい。みなさん、今日もお疲れ様でした。子供さん達も、学校、お疲れ様でした。今日は、ご飯、みそ汁、漬物を主とした一汁一菜に、おかず一品を用意しました。お好きなものをどうぞ。冬の寒い間、一生懸命野菜を作ってくれた農家の方に感謝をこめて、春の花畑にこのような、春野菜をたくさん使って作りしました。

【おにぎり】今、おにぎりはフランスのスーパー、駅、空港の売店などで買うことができます。子供達が学校から帰宅後、「ただいまー、味噌おにぎり」の声が響きました。

* 味噌おにぎり お味噌をたっぷりつけてどうぞ。

* 昆布入りおにぎり 昆布の佃煮は、戻した昆布を、しょうゆ、みりん、味噌、砂糖、水飴を加えて煮ます。お好みで、山椒の実を加えます。* 梅干し入りおにぎり * にこにこおにぎり

【おかず】* ひじき煮 ひじき、人参、れんこん、こんにゃく、油揚げ、ゆでた大豆 * 皮だけきんぴら ごぼう、人参、大根、パースニップの皮を干して、作ります。* ルッコラ入り卵焼き * ポテトサラダ 親戚のおばさんが、よく作ってくれた思い出の一品です。同じように作ろうと試みますが、どうしても同じにできません。それでも、思い出がたくさんつまった、おばさんの優しい味、きっといつかおばさんを懐かしむ味になると思います。味を伝えることは、その人が生きていた証です。伝えたい料理は、お店では食べられない大事な味です。

【漬物】* 糠漬け きゅうり 人参 かぶ キャベツ

* 即席漬け きゅうり 人参 かぶ キャベツ 昆布 * ビーツと大根の甘酢漬け



～ぐりとぐらのカステラ～

子供たちが大好きな絵本、今日はぐりとぐらが森で作った大きなかすてら、フライパンで焼きました。

お餅のつぶら 母が作ってくれたおやつ、学校から帰宅すると、お茶と揚げ餅が定番おやつでした。

里奈から一言メッセージ

3月5日からは、24節気の春の3番目の節

気、「啓蟄」です。冬眠していた動物や虫が起きてきて、冬の寒さも少しずつ和らぎ、春に向けて暖かくなる時期です。季節の変わり目、心身のバランスが崩れやすく、体の変化を感じたり、調子も乱れやすく、気力がわかないと感じる方もいるでしょう。

そこで、3月は、一日の間に、少しでも本、テレビ、スマホなしで、休む時間を作ってみませんか。漢方では、苦みや香りのある食材が、心身を安定させると考えます。これからの時期の旬、セロリ、アスパラ、柑橘類などで、さっぱりとサラダはいかがでしょう。(セロリ、アスパラは千切り、さっとゆで、オレンジやみかんの果汁をオリーブ油と混ぜて、ドレッシングを作ります。)



倉田 節子・フィエベ 里奈

Instagram: @lina_fievet ウェブサイト: linafievet.com

著書『LA TRADITION DU

VEGETAL(éditions la plage)』の購入は一般書店及びeBookで

<https://www.laplage.fr/produit/386/9782383380443/japon>



終(つい)のデザインのススメ

己の最後を決めるための 日本における相続・遺言の基礎知識 (65) (日仏間も視野に入れて)

相続の“前”に考えること その11

相続以前にすべき検討を‘4つのマトリクス’を活用し考えるテーマに戻り、まとめてみたいと思います。

◆終わりは自分で決める

“終(つい)のデザイン”として、ライフプランの最終盤を、ココロとカラダ、生前と死後の組合せで(A)から(D)の4つのマトリクスに分けて、現状や課題、メリット・デメリットなどを概観してきました。「相続の“前”に考えること」のひとつとして4回にわたり紹介した「家族(で)信託((B)と(C)のハイブリッド型対策)」も、課題はあるが日本で最期を迎えるひとつの選択肢となるのではないのでしょうか。

◆(B)生きているときのおカネへの対応は進化する

昨今、(B)のおカネの不安を減らすべく、長寿化(認知症発症)による金融商品へのアクセスが阻害されない方法(商品)の検討・開発が盛んになっています。例えば、預貯金口座の“家族代理人事前登録”や、証券会社のサービスとして投資信託など金融商品を自動解約し資金を取り崩し(生活資金の)必要金額を毎月、自分の預金口座に入金できる仕組みが既にあります。先月、日本証券協会から発表されたのが、認知能力が低下する前に妻や子等を代理人に指定して株式等の“運用”ができるような「管理・運用」代理人制度も開発され、老後のおカネの管理だけでなく“運用”を含めた対応が可能となりそうです(インフレで預金のみだと目減りの一方なので老後の資産運用も今後の重要課題です)。また、法定後見人に頼らず、商業信託として財産(入出金等)だけ管理運営を依頼できるサービスも登場しました。ただ現状、どれも「常に短し襷に長し」な感は否めず、更なる使い勝手等が良くなることが期待されます。

◆自分でマトリクスを書いてみよう！

いずれにしても、考えるのは億劫となる前、まだ自分で決められるうちに、自分なりに(A)から(D)のテーマ別に、どうしたいか、どうできそうかを一度書き出すのが良い対策となると思われます。財産(おカネ)だけでなく、自分の気持ちや人間関係など「ココロ・ヒト」を中心に置いて、ちょっと引いて眺めましょう。

(A)生きているときのカラダ

(B)生きているときのおカネ

(C)死んだとき(後)のおカネ

(D)死んだとき(後)のカラダ

それぞれの対策には、メリット、デメリットの両方があることを押さえつつ、過不足や見落としがないか、また組合せの要否可否等を、真ん中の自分のココロに向き合ってみましょう。マトリクスがほしい(これが大事！完璧はないですから)完成したら、自分だけでなく家族や近い人に見せてみましょう。必要ならば、専門家にも相談しつつ、不足や見落としを補う、別の方法に代えてみたりして、自分自身の最適解を見つけるべく“終のデザイン”を検討してみたいかがでしょうか。

◆感情を勘定に入れて、鳥の目で確認してみよう

‘終活’というと、死んだ時のおカネや体(葬儀・墓)に目が行きがちですが、生きていた時こそが大事。生きていた時のおカネ(B)を考えることは、自分に向き合うことに他ならないことにも気が付きます。この先、私はどうしたい、どうなる？を具体的に妄想してみよう。その際、「感情」を「勘定(おカネ)」に入れて考えると、意外と冷静になれるかもしれません。自分で、または家族や近い信頼できる人と一緒に冷静になって4つのマス目における選択肢を総合的に“俯瞰して”バランスを見る。これがとても大事だと思います。

(注) 記述の家族(で)信託は、フランスの財産については適用がないと思われるため、日本にいる親兄弟における相続対策としてお読みください。



司法書士 桑瀬 登起子(くわせ ときこ 会員)
Consulting Office 桑瀬
TEL: 03-3354-0445 / FAX: 03-5363-8971
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15-38-202



連載

フランス生活 養生訓



第24回 「マース・ブルー ～大腸がんのお話～」

少しずつ春めいてきた今日この頃、年末年始でお疲れ気味だった胃腸もようやく通常運転というところでしょうか。

すでにあちこちのメディアや街中の広告などで耳にしたり見かけたりしているかもしれませんが、フランスでは毎年3月は「Mars bleu(マース・ブルー)」と呼ばれる「大腸がん予防キャンペーン月間」です。

大腸がん…、実は私たち日本人も他人事はではありません！

最新統計による日本人の罹患数第1位(2020年)は大腸がん、その上、がん死亡数(2023年)で、なんと女性では1位、男性では2位、総合でも2位と、かなり身近な病気なのです。

大腸がんは生活習慣病と密接な関係があり、喫煙や飲酒、ストレスや運動不足や肥満、そして原因の一つとして考えられるのが、高脂肪や食物繊維不足、いわゆる“欧米型食生活”によるものと指摘されています。

栄養士の仕事をしていると、さまざまなフランス人患者さんの食生活を伺う機会が多いのですが(というかそれが仕事なので…)、野菜をはじめとする食物繊維源が全く足りていない！今住んでいるのがフランス北部ということもあり、ジャガイモ=野菜と間違えて認識している方も多々！(ジャガイモは、当然ながら“炭水化物”です…。)しかも、フリット(フライドポテト)がないと始まらない…。もう、「お——い！」とツッコミどころ満載なのです。とはいえ、日本人の私たちもお米や麺類、炭水化物だけで食事をちゃちゃっと済ませてしまうこと、ありませんか？

大腸がんを予防するために、以下の4つのポイントを押さえた食生活を心掛けてみましょう。

- ① 食物繊維を多く含む食べ物を食べる
- ② 乳製品の取り方と回数に気をつける
- ③ 動物性タンパク源の取り方に気をつける
- ④ 飲酒はほどほどに

まず、①についてですが、食物繊維源は野菜だけでなく、果物や穀物(全粒粉や玄米など)、雑穀・豆類にも多く含まれます。これらを意識して多く食べるだけで、一日の食物繊維量がアップ。具体的には、いわゆるパゲットより全粒粉のパゲットを選ぶだけで、繊維量は2.5倍にアップし、オレンジジュースを一杯飲むのであれば、オレンジをまるごと食べる方が繊維量は10倍もアップ！このようにちょっとした意識の違いで食物繊維量を増やすことができます。

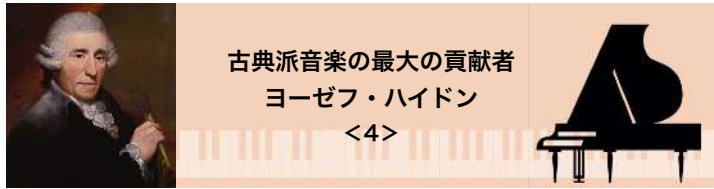
②については、乳製品といえ、脂質の高いチーズ類や脂質の低いヨーグルトなど様々です。大切なことは同じものばかり食べないこと。そして乳製品は一日2回程度に、脂質の低いものを選ぶことも大切です。

③も然り。牛肉や加工肉(Jambon blanc ハム Lardonラルドン)などの量はほどほどに、卵や魚などバリエーションを増やしていきましょう。昨今の物価高ですが、イワシや鯖の缶詰や卵などは比較的安価ですね。こういったものもうまく活用し、色々な動物タンパク質源を取り入れてください。赤身の肉(主に牛肉)の食べ過ぎは大腸がんのリスクを増加させます。ただ、赤身の肉には鉄分が豊富に含まれるなどの良い面もありますので、“量”“頻度”に注意し、質の良い美味しい赤身の肉をいただきます。④については、前回の会報にも書きましたが、アルコールのメリットってなんだろうと考えてしまうほど、リスクの方が大きいものです。ただ、いつの頃からか飲み始めてしまうと、止められなくなるものであることも事実。度を越さず、うまく付き合っていけるのであれば、“嗜好品”と位置付けて、嗜んでいくのもアリだと個人的には思っています。

大腸がんの早期発見には便潜血検査、つまり検便が効果的です。早期は無症状ですが、進行すると肛門からの出血や排便週間の変化(便秘や下痢など)、便が細くなる、残便感、貧血や腹痛、嘔吐、体重減少を伴った全身倦怠感があります。フランスでの検査キットは薬局での無料配布や以下のサイト(モンキッド・デピステージ: <https://monkit.depistage-colorectal.fr/#/accueil>)から登録可能です。この機会に一度チェックしてみてくださいね。



小椎尾 真衣(こじお まい)
Diététicienne-Nutritionniste /管理栄養士
インスタグラム
<https://www.instagram.com/diet.japonaise/>
(日々の食生活をゆるーり綴っています)



古典派音楽の最大の貢献者 ヨーゼフ・ハイドン <4>

西洋音楽は「クラシック音楽」と言われ、「襟を正して聴く音楽」「教養文化」「上品な趣味」と思われています。クラシックの語源「classic」はラテン語、古代ローマの市民階級、最上位の貴族階級「classicus」は高貴で品格があることを意味していました。後に優れたものを表す形容詞となったのです。ヨーロッパで18世紀の芸術運動が古代ギリシャ・ローマ芸術の再評価、その成果に対し「古典主義」と呼ばれるようになりました。

ハイドンの作品は交響曲の分野で人口に膾炙、非常の好まれて多くの人が聴いていると言えます。しかし、ピアノ・ソナタは習い始めのころは多く弾かれますが、上達し始めてくるとハイドンとは縁が遠くなるようです。

国際コンクール審査の経験で、優勝者や上位入賞者たちは予選の段階でハイドンのソナタを演奏する、モーツァルトとベートーヴェンも選択の範疇に入りながらもハイドンの方を選ぶ、その理由を考えていました。

古典派音楽の最大の貢献者に相応しいハイドンのソナタを弾いてみると、ひとつの特徴があります。モチーフの素材、展開、構成がバッハの作品と同じく、演奏される楽器に捉わらず音楽そのもので、ハイドンの場合は管弦楽合奏の構想になっています。

ウィーン・ステファン大聖堂の聖歌隊で最高の教育を受け、独り立ちしたハイドンは前回に記載したように修業、器楽合奏を中心に作曲技法を重ねました。その集大成が100曲以上の交響曲で、ベートーヴェンの規範となりました。

ハイドンは交響曲であらゆる可能性や技法を追及しています。交響曲の楽章にメヌエットを入れて4楽章構成とし、第1楽章の冒頭に緩徐の序奏を置くようになります。

最後の6つの交響曲はフルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・ホルン・トランペット各2本、ティンパニ、弦楽を5部に拡大、交響曲の古典的編成である二管編成を完成させ、19世紀の西洋音楽の方向性を定めています。

バロック後期から古典派音楽の誕生は、啓蒙時代の背景「楽曲の均整感と合理的展開」が重んじられました。17世紀ごろに起きた機能と声と調性関係から「主調と近親調＝緊張と弛緩」が楽曲構成の基本となり、古典派音楽移行期と西洋音楽鑑賞の一般化でアマチュア演奏家の増加、即興能力が必須の通奏低音が廃れ、楽譜に作曲家の主張はすべてが記譜されるようになります。ソナタ形式の均整感と合理的展開で、作曲家が指示しない限り、即興能力が邪魔になるでしょう。

モーツァルトとベートーヴェンは演奏家、鍵盤楽器奏者・ピアニストとして登場、圧倒的な存在でした。ハイドンにも優れた鍵盤楽器奏者でしたが、管弦楽合奏指揮者としてヨーロッパを席卷していました。若手指揮者がオーケストラ常任にハイドンの交響曲全曲を指揮することを契約条件に入れる話を聞くとその理由に頷けます。ピアノ・ソナタでハイドンの作品が多く弾かれていない理由は、楽譜の絶対量がモーツァルトとベートーヴェンの作品に比べて、非常に少ないことが挙げられます。モーツァルトとベートーヴェンのピアノ・ソナタは50種ほど、ハイドンは5種、ヘンレ版、ウィーン原典版、ペーター版、ブダペスト・ケンネマン版、レアポケット版しかありません。運指法もモーツァルトとベートーヴェンは歴史的な演奏家が遺している

参考にできますが、ハイドンの場合、旧ヘンレ版があまりにも良くなかったのです。しかし、ヘンレ社は2020年に「55人のピアニストによる運指法、出版番号1336、1338、1340」を出版、これは素晴らしいものです。



ウィーン聖ステファン教会

山崎 孝（やまざき たかし） 1937年生まれ。東京藝術大学卒業。ピアニスト

グローバル時代のコミュニケーション

～国や文化を超えて真に信頼関係を作るコミュニケーション～

【第47回】

みなさまこんにちは。

あっという間にもう3月ですね。最近私は俳句を始めたのですが、俳句では2月4日の立春から春のようです。しかしながら今年は冬将軍がしっかり居座って、2月の下旬になっても九州でも雪が降っています。本当に地球の気候がおかしくなっているようですね。

パリはいかがでしょうか？

さて、このコラムでは、これまでの私の経験体験から、グローバル人材に必要な考え方やスキルのベースとなっているものについて、いろいろとお話しさせていただいています。今回も近年日本でもとても重要視されている「組織開発」についてお話させていただきたいと思います。

前回はなぜいま組織開発が必要なのか？についてお話させていただきました。今回は組織開発が難しい理由から組織開発を成功させる手法についてお話させていただきたいと思います。

組織開発が難しい理由は、色々ありますが、最も大きな問題は、組織にはいろいろな人間が複雑に絡んでいること、いろいろな人間関係があるからです。人材育成は、個人の教育育成ですので、個人が成長すれば完結します。しかしながら組織開発は、多様な人間の集合である組織全体を、成長、活性化する必要があります。リーダーとメンバーはそれぞれが人間で、個性を持っています。こうすれば上手くいくといった画一的な単純なものではありません。それぞれの組織にあった組織開発を行う必要があります。また組織の目的も、もちろん個々に違うので、組織の目標にあった組織開発を行う必要があるのです。一つのやり方で全て上手くいく事はありません。これが組織開発を難しくしている理由です。ではどのように組織開発を進めればよいのでしょうか？ 私はこれまでいろいろな組織の組織開発のお手伝いをさせていただいてまいりました。その経験から組織開発を行うにはどのようにしていけばいいか、その内容をお話したいと思います。

成功のためには、やっていくプロセスが重要です。私は組織開発成功のプロセスを以下のように定義しました。

- （１）理想の姿を考える
- （２）そうならない要因分析
- （３）解決策

これからこのプロセスに沿って解説したいと思います。

まずは（１）理想の姿をしっかりとイメージしておくことが重要です。

大山が考える組織開発成功の理想の姿（ゴール）は現場では

- ・現場のそれぞれのリーダーが自組織の理想を考える
- ・そしてそのことを部下としっかり話し合い
- ・自組織の理想の姿を実現し牽引していくことができること
- ・自組織が役割を認識し、責任を果たすことができること
- ・上司部下が心理的安全性を確保し信頼し、生き生きと働きがいを持って仕事をすることができること

人事部門、会社側としての理想の姿は

- ・受講者が積極的に学び 学んだことを実践し、理想的なリーダーになり組織開発を行い、生産性も上がり 会社全体が伸びていく
- ・参加者から 素晴らしい研修をしてくれて本当にありがとうと言ってもらう 感謝・承認される

このようなことができたなら理想なのではないでしょうか？

次に（２）理想になっていない要因分析を考えます。このような理想にならない原因を、私のこれまでの経験から分析してみました。

- ・組織開発の目的ゴールが明確でない
- ・組織開発を行うマネジメントスキルがない
- ・研修に対してやらされ感満載で真面目に受講しない、忙しい研修を受ける時間がない
- ・学んだことをどのように自分の組織に活かしたらよいかわからない
- ・相談する相手がいない

せっかく研修を受けても、自組織の人間関係や課題に、どのように応用したらよいかわからない方が多く、そこで止まってしまうケースが多く見られます。ゴールを明確にし、そうならない理由を考えること。ここがスタートになります。ここを明確にして解決策を実践するのです。次回以降も組織開発について、お話し続けて行きたいと思っています。

大山裕之

コンティニュー株式会社 代表取締役社長
社団法人コーチアプローチファシリテーター連盟 理事長
国際コーチ連盟認定プロフェッショナルコーチ

場所と

人の出会い

[56]

リヨンの遠藤周作

遠藤 周作
(1923-1996)

よくお客さんから「どうしてフランスに来たんですか？」という質問を受ける。大抵は「豊かな食材と美味しいフランス料理や、フランスのカルッとした気候に憧れて」などと答えるが、よくよく考えると、中学時代に読んだ遠藤周作氏（以後「遠藤氏」と表記する）の本から強い影響を強く受けたのではないかと考えている。一番最初に読んだのが「ぐうたら生活入門」だった。遠藤氏の純文学作品やキリスト教関連の本とは程遠い、どちらかというとコミカルな本との出会いであった。その後、他のぐうたらシリーズ、狐狸庵シリーズを読み、「もっともっとこの人の本を読みたい」と思うようになった。最初の文学作品としては、自分自身の受験期と重なり共感した「灯のうるむ頃」だった。たまたま同時期にNHKの銀河テレビ小説でもドラマ化されていたので尚更興味深く、主人公の町医者役の千秋実が良い味を出していた。

遠藤氏と私は僭越ながら多少共通点がある。遠藤氏はフランス留学時代に洗礼名である「ポール・エンドウ」という名前と呼ばれていた。私もあまり人には言えない過去だが、若い頃東京の職場で「ジャン・ポール・オシノ」と、控えめながらに「ジャン・ポール」を名乗っていたことがあった。ただ、私の場合は洗礼名のような真面目なものではなく、単純に俳優のジャン・ポール・ベルモンドからとってきただけだった。

遠藤氏は旧制・灘中（今の灘高校）出身であるが、その後慶大の予科に入學するまでに浪人を繰り返している。その間に当時目指していた旧制高校の校歌などを沢山覚えて歌っていたそう。このエピソードに親近感を覚えるのであるが、私自身、浪人中に志望校の校歌や応援歌を覚えて、まだ生徒でもないのに大学野球の応援に連日神宮球場に駆け付けて校歌や応援歌を歌って士気を上げていたのだった。



遠藤周作が在籍したリヨンの大学

遠藤氏は戦後日本初のカトリック留学生としてフランスへ渡った。この留学は、フランスのカトリック教会が日本でのキリスト教発展を目的に、篤志家の協力を得て行ったものだ。自書で「私は幸か不幸かキリスト教に縁遠い日本の中でキリスト教の洗礼を子供の時に受けている。何度捨てようと思ったか知れない。ある時はこれは重荷になり、ある時はこれは自分にとって仮着に見え、ある時は虚偽に見え、ある時は自分を恥じる余り捨てようと思ったのである。それなのに、私は今日もこれにしがみついている」とまで書いている。遠藤氏とキリスト教は切っても切れない関係だ。その時の留学を「天正の少年使節の昭和版」と言っている。片や私はキリスト教とは無縁であるが、小学校時代に夏休みの度に学校側から与えられて仕方なく読んでいた課題図書の中で、初めてじっくり興味をもって深く読むことができた本が「天正の少年使節」であったことを思い出す。

私にとってリヨンという町はサンテグジュペリではなく遠藤周作である。遠藤氏はリヨンで2年半に近い日々を独りぼっちの生活で過ごした。私もかつてアメリカの片田舎での学生生活の経験があり、当時遠藤氏の独りぼっちの学生生活を思い浮かべたものだ。遠藤氏はその独りぼっちの生活から「小説を書きたい」と思うようになったそう。

我々が海外生活をしていると、よくアジア人がひとまとめに語られることがある。我々日本人は、日本人としてのアイデンティティを大事にしていると同様、中国人やベトナム人、韓国人などなど、皆自分は〇〇人であり他の国と混ざってほしくないという本質があると思う。現地人とのその場限りの軽い会話で「お前は中国人か?」「ニーハオ」と言われることがある。見ず知らずの人に何を言われようとあんまり気にしない方だが、やっぱり咄嗟に「日本人だあ!」と言ってしまふこともある。そんなときに遠藤氏のリヨンでの古本屋でのエピソードを思い出す。その店は感じの悪い店主ではあるものの、品揃えの良さから、その古本屋に通わざるを得なかったのだが、ある日「君はベトナム人か?」と聞かれ、遠藤氏は「俺は日本人だ」と返事をすると、「Ça m'est égal (俺にはどうでもいいことだ)」と言われたそう。遠藤氏は頭にきたもののその場では言い返せず、考えた末の仕返しに、数日後その店主に「あんたはボッシュか?」と言ったら、店主は怒り狂って「俺はフランス人だ」と答えたそう。それに対して遠藤氏は「Ça m'est égal」とお返しをしてやったそう。ただ、後に「ボッシュというのはあんまり良くない言葉なので、使わない方がいい」とフランス生活の長い人から教わったので、私はそういう場面では「それじゃ〜君はドイツ人か?」と言い変え、遠藤氏の切り返し術にあやかることにしている。

遠藤氏の留学期間は3年近くに及ぶものであったが、最後は病気が原因で帰らざるをえなくなった。本当は帰りたくなかった。私もアメリカに4年半いたが、本当はアメリカを離れたくなかった。また遠藤氏には「サド伝」という著作があるように、サド侯爵の研究をしていたので、そのことで興味を持った私も南仏に行った際にラコストに立ち寄ったことがある。旧・サド城の辺りを草むらをかき分けて歩いていたら危く崖から落ちそうになった。遠藤氏は同じ旧・サド城でまさに雪に埋もれていた井戸に落ちた経験があるという。よくよく似たような経験をするものだ、と独りよがりにも文豪に近づいた気になっている、いちファンが私である。私を本の世界に引き込んでくれた遠藤氏、いつか長崎の遠藤周作文学館を訪ねてみたい。

遠藤周作が住んだ
アパート

フランス政府公認ガイド 星野 守弘

細道のどこまでつづく花すみれ
点々と小さき草に水温む
寒稽古凍る素足に熱き声
ひとり増へひとり去りしや春疾風

梅東風に薄目をあけて装ひぬ

東風に酔ひ早よ眠らまし酒二合

舞ふやうに風花追うて幼の手

端然と山間の鳥雲に入る

冴ゆる星月を挟んで道しるべ

花束を東風吹く中を持ちをりて

大寒の知らず知らずの涙かな

春寒や髪長のありがたき

セーヌ川冴ゆる波間に驚一羽
書初や心と一字決意込め

音の無ひ音させて降る牡丹雪
詩人果つ旅立送る春寒し

はつとする真白なる霜森冴ゆる

東風吹かば地球は廻る東向き



自選句集 154

(入会順)

美佐子

美佐子

茜 茜

佳久子 佳久子

容子 容子

春代 春代

なをみ なをみ

万里 万里

勝義 勝義

ヨシ ヨシ



日本人会フランス語講座 2025年4月～7月



月			火			水			木			金		
9:45-12:00 会話A1 1 Laurent	10:00-12:15 A1 4 Florence	10:00-12:30 会話 B2+ 5 Muriel	9:45-12:00 A1/A2 8 Marine	9:45-12:00 DELF A2 10 Laurent	11:00-12:00 発音マスター 18 Muriel	9:45-12:00 A2 14 Laurent			9:45-12:00 入門_4 16 Laurent	10:00-12:15 A1/A2 24 Florence	9:45-12:00 入門_2 30 Laurent	9:45-12:00 会話 A2+ 20 Muriel		
12:30-14:45 A2 2 Florence	12:30-14:45 入門_2 34 Laurent		12:30-14:45 Conversation A2 9 Muriel	13:00-15:15 入門_1 11 Laurent NEW!								13:00-15:15 入門_3 35 Muriel	13:00-15:15 入門_4 17 Laurent	
		17:15-18:45 DALF C1 6 Muriel		17:15-18:45 DELF B2 12 Muriel		17:15-18:45 DELF B1 15 Muriel			17:00-17:45 KIDS 29 Laurent	17:15-18:45 DELF A2 19 Muriel				
19:00-20:30 入門_4 3 Laurent	19:00-20:30 入門_3 7 Muriel		19:00-20:30 入門_2 31 Laurent	19:00-20:30 会話 A2+/B1 33 Muriel		19:00-20:30 A2 26 Laurent	19:00-20:30 入門_1 NEW! 27 Muriel	19:00-20:30 A1 21 Laurent						

オンライン

日本人会
教室

日本人会では、**2025年4月7日(月)**から始まるフランス語講座の生徒を募集しています。

- ・これまでフランス語を勉強したことのない方向けのクラスから、DALF C1受験用の上級者クラスまでレベルに合わせてお選びいただけます。
- ・楽しい雰囲気の中で学習できる「教室クラス」と忙しい方などが移動せずに授業を受けられる「オンラインクラス」があります。(教室クラスは定員8名、オンラインクラスは定員6名。少人数での効果的学習が可能です。オンライン授業にはTEAMSを使用いたします。)
- ・日本人の弱点を知り、日本人の指導に精通した講師が揃っています。
- ・今期新設のクラス：はじめてフランス語を学習する方向けのクラスを新設いたしました。

■火曜13時00分～15時15分 入門_1 (教室クラス)

■水曜19時～20時30分 入門_1 (オンラインクラス)

*入門1のお試し受講は授業進行上の都合から第2回目までとさせていただきます。(その他は残り8回前まで)

・DALF対策講座は Muriel NAVARRO講師(DELF認定官)による試験対策講座です。一般の語学学校では不可能な、日本人が間違えやすい点を徹底指導。非常に高い合格率を誇ります。DELF/DALFのクラスはお試し受講であっても受講前にレベルテストを受けていただきます。

- ・日本人会のフランス語講座は18歳以上が対象です。/KIDSクラスは小学生以上が対象です。
- ・お一人2クラスまで体験受講(違うクラスを2つ。同じクラスを2回ということではありません)をしていただけます。/日本人会会員でない方も体験受講は可能です。

・途中入校も可能ですが(その場合、料金は回数割で15%割増)残り授業数8回以降になりましたら無料体験および途中入校はできませんのでご了承ください。

- ・オンラインクラスはフランスの地方、日本からの受講も可能です。
- ・講座の申し込み人数が3人に達しない場合はそのクラスは開講しない場合がございます。
- ・日本人会フランス語クラスの受講は日本人会会員に限ります。

フランス語レベル目安は以下のリンクよりご覧ください。

https://zaifutsunihonjinkai.fr/wp-content/uploads/2022/06/2022_SEP_niveaux_francais.pdf

日本人の特徴を知り尽くした講師陣による授業

Mme Florence MEHRVAR
Mme Marine VALLE
Mme Muriel NAVARRO
M Laurent LOYER

料金表と授業のスケジュールは下記リンクよりご覧ください。

<https://zaifutsunihonjinkai.fr/non-category/post-79766/>

問合せ・申込：

Tel. 01 47 23 33 58

coursfr.ajf@gmail.com

目次

第16回音読発表会	1-2	日本の四季のレシピをフランスで	8
マロニエの会新年会	3	終(つい)のデザインのススメ	9
日本人会「川柳パリ会」	3	フランス生活養生訓 第24回	9
パリ日本文化会館事業案内	4-5	ヨーゼフ・ハイドン <4>	10
Amic Jカード協賛店リスト	5	グローバル時代のコミュニケーション	10
舞台裏より愛をこめて vol.21	6	場所と人の出会い <56>	11
フランス人物伝 <21>	6	ふらんす俳句会	11
日本人会活動案内	7	日本人会フランス語講座	12
フランス歴史散歩道	8		

日本人会会報 Journal Japon

年6回発行：第50巻2号(通巻312号)

発行人 片川 喜代治
編集人 高橋 幸隆
レイアウト 杉山 清美
発行 在仏日本人会

Association des Japonais en France
(旧) Association amicale des ressortissants japonais en France
9, Av. Marceau 75116 Paris
TEL: 01-47-23-33-58

月～金 du lundi au vendredi 9:30-12:30 / 13:30-17:30
<https://zaifutsunihonjinkai.fr/contact.ajf@orange.fr>
*サイト内「会報」「お知らせ」のバックナンバーを閲覧する際のパスワード：heian2020
*本誌の無断転載を禁じます